

# 相談室だより (2011年8月)

担当：みさき病院 MSW 緒方

毎年のことながら、あっという間に時が過ぎていきます。気付けば、もう9月、そう今年度の半分が終わります。個人的にも、研修や出張続きで、多くの勉強をさせていただいています。今回の相談室だよりは、認知症に関する法人内外の取り組みを中心にお届けします。

## 「認知症」を街づくりのキーワードに

### みさき病院の取り組み 日常診療

認知症になっても、『出来るだけ在宅(地域)で暮らせるように』、『在宅で暮らすことが困難になれば、施設での暮らしへ』、『在宅や施設での暮らしが困難になれば、一時的に入院し、また在宅や施設へ』。この考え方で認知症医療にあたっています。そのためは、日常診療として、物忘れ外来の実施やMSWによるご家族や介護保険事業所等との連絡調整をしています。

物忘れ外来の新患は月平均 28.2 人。  
家族構成：独居(19%)、高齢者二人暮らし(16%)  
介護保険：未申請(32%)  
生活の場：自宅(88%)

上記のような状況なので、家族や介護保険事業所等との調整が必須となっている。

- ・介護保険申請援助、区分変更など
- ・介護保険事業所とのサービス調整
- ・ケアマネと一緒に自宅訪問
- ・入院調整 など

### みさき病院の取り組み 徘徊マップづくり

事業所内では、「離院対応マニュアル」を作成中です。離院が発生した際には、初動をいかに早くするか、どれだけ多くの職員が対応できるか(人海戦術)の2点が、大きな鍵となります。そのために、マニュアルと搜索ルートの作成が必要です。搜索ルートについては、「ボランティアを募り、みさき病院・くるさき苑周辺の「徘徊マップ」を作成しています。実際に、人間が30分以内にどこまで歩けるのか?、歩く場所に危険箇所はないか?などをポイントに「徘徊マップ」を作成しています。

実際に、病院周辺を歩いてみると色々なことを感じます。「こんなところに池があるのか。ここは危ないな」、「こんなところにも家があるのか」、「この

辺には店がないな。独居の人はどうやって買い物しているのだろう」、「この道は、みさき病院・くるさき苑が建つ前は、交通量が少なく、静かだったんだろうな」などなど、今までの『通勤路』がたちまち、『地域の道』に変わっていきます。

### 大牟田市の取り組み 徘徊への対応

「ほっと・安心(徘徊)ネットワーク」の構築に取り組んでいます。『安心(徘徊)』と表記されているのは、ネットワークの対象が、高齢者だけでなく、子どもも含んでいることを意味します。高齢者や子どもに優しい地域づくりを目指しています。今回、9月21日に開催される徘徊模擬訓練は、第8回目となります。年々、創意工夫が重ねられ、今回は、多くの医療機関・介護事業所への参加を募ってあります。前日の8月25日・26日に、この説明会が実施され、みさき病院からも13名が参加しています。徘徊や認知症を有する市民を地域でどう支えていくか、具体的にはどういったシステムを市が構築しており、そのシステムに民生委員さんや公民館など多くの地域組織が組み込まれていることを学びました。そして、今後は、私たち親仁会の事業所も共同参画し、私たちの「力」を地域に還元する必要があると強く感じました。

#### 2011年度徘徊模擬訓練

<日時>

9月21日(水)  
13時より開始

<内容>

徘徊役の方を立てて、行政・警察などの機関と「地域」、医療機関・介護事業所が一体となって、徘徊役を発見していきます。

この過程の中で、「情報伝達」や「搜索方法」などの実践が問われます。もちろん、私たち親仁会の各事業所内の対応を振り返るいい機会となります。